

官製談合問題報告会

利権許さず、良識の通る町政へ

官製談合疑惑を追及してきた6町議が9日、百条委員会委員長の報告書作成で助言した玉木昌美弁護士を迎えて「甲良町官製談合問題報告会」を開催。北川町長はじめ約40人が参加しました。この日は疑惑のもたれた建設工事の入札が執行された2年目に当たり、出席した5議員もこの間の思いをそれぞれに語りました。



玉木弁護士
「捜査をあいまいにさせないためには、町民が関心を持ちつつづけることが大事」

玉木昌美弁護士は担当した「えん罪・日野事件」などにふれながら、自己紹介。甲良町官製談合事件と関わった「恐喝未遂事件」の位置づけも説明。官製談合の核心となる謀議が、当時、議会事務局で行われていたなどの特徴を説明し、その真近で見聞きした職員の証言が大変重要な位置をしめて「疑惑の解明につながった」と指摘。かくした40万円をピタリと当てた最低制限価格のからくりや「落札ありき」の指名基準変更など歴然とした談合疑惑を示す事実が存在し、検察が捜査をあいまいにするとはできないはずだと述べました。玉木弁護士は、それのためにも町民が関心を持ち続けることが大事」と強調し、引き続きの支援を呼びかけられました。

玉木弁護士の報告の後、参加者から質問、意見が寄せられました。

もつと毅然とした捜査をして欲しい

丸山光雄議員の発言

私は今年、4月に補欠選挙で議員になった丸山光雄です。今、日本では3人寄れば、原発が話題になり、甲良町では3人寄れば官製談合の話だと言われる。甲良町では、この官製談合の捜査の行方を広く注目していると思います。私はこの官製談合は本当にあったと思う。

なぜなら、本人でしか分からない40万円とか30万円とかいう数字を知っている。それと、仕事のランクが下にもかわらず、ランクをあげて落札の権利を取らせたと、それからCDの「物証」とも言える事実が存在

なぜなら、本人でしか分からない40万円とか30万円とかいう数字を知っている。それと、仕事のランクが下にもかわらず、ランクをあげて落札の権利を取らせたと、それからCDの「物証」とも言える事実が存在

お元氣ですか
日本共産党です
暑中お見舞い
申し上げます。
「去年はこんなきつかったかなあ」...。体力が落ちてきていること、記憶が薄れていることとも関係があるのかもわかりません。でも、各種の報道を見ると統計的にも早くから猛暑が指摘されています。真夜中、寝る時刻に蝉のジージーが寝苦しさを増加させます。放射能汚染したエサを食った肉牛が市場に回ったと大さわぎが続いています。真の原因を明らかにしなければ、畜産農家たたきの報道となりかねません。その農家は福島原発から80キロも離れていません。福井原発から滋賀琵琶湖・甲良町は80キロ圏にスッポリ入ります。32年前のスリーマイル島原発事故の教訓を受け、アメリカはこの80キロを体内被ばく危険区域に指定。さぼりつづけた自民・民主の政権こそ指弾されるべきです。

日本共産党甲良町支部の見解を紹介します。

甲良民報
2011年7月17日 480号
発行責任：日本共産党甲良町支部
連絡：甲良町在土463(西澤)
Tel.Fax38-4949

していること、これらをふまえて、もつと毅然たる捜査をしてほしい。

町民の良識 世論が 事件解明の原動力

西澤議員のあいさつ

「ご参加いただきまして、まことにありがとうございます。」

甲良町は今、町直しの途上にあるのではないでしようか。

みなさんの良識が事件の真相を解明する原動力をつくつてきた、と思つていきます。

今回、明確になつた官製談合事件をきっかけに、利権町政から卒業しようじゃないか、という強い流れを、私は感じずにはられません。

町長や住民の代表である議会の議長、副議長が、こともあろうか、みんなの税金を、我がふところの金と思ひこんで、自分の気に入つた建設業者に工事をさせる、こんなことがまかり通れば、町民はたまつたものではありません。みんなが、気持ち良く暮らすつと思えば、まちがつた過去の政治と向き合つて、抜きに、みんなが気持ちよく暮らせる町政はつくれないと思ひます。

また議会のあり方として、官製談合疑惑追及の一致点で、それぞれ異なる立場から、それぞれの議員の特色をいかし、協力してきた議員の役割も見ていただきたいなと思ひます。

思ひ起こせば、この官製談合を追及する議員は、発覚当初は

限られた少数派でした。ところが、官製談合の仕組みがひとつ一つ明らかになるにつれて、多数派になつてきました。動かせない事実を前にして、議員としての良心を呼び起こし、行動し、発言するに至つた過程でもあつたと思ひます。

それを土台に山崎町政を打ち破つて北川町政を誕生させた力が、町職員が入札事務のゆがみを話す勇気を生みだし、大変難しいと言われた百条委員会の設置へと進み、談合打ち合わせを真近で見聞きした職員の証言へと乗り、関係者を刑事告発できるところまで、たどりついたのではないでしようか。

真相解明の過程で、議会事務局長が、自ら命を絶つたというたましい事件が起き、町議を含む人の逮捕が起き、調査活動が暗礁にのりあげるかに見える困難な時期を克服してきたことを誇りに思ひます。これも、多くの町民の、まともな町にしたいという願ひが背景にあつたからだと思ひます。

来年1月は議会の改選です。町の良識をとりもどす戦ひの流れを逆もどりさせてはならないと思ひます。みなさんのご支援をお願ひしまして私のごあいさつとします。



官製談合事件

速やかな捜査を

7月5日、玉木弁護士、舟橋弁護士(町の顧問弁護士)、北川町長、西澤議員らがそろつて、大津地方検察庁の海洋三席検事に対し、「速やかな捜査を求め」要請を行いました。要請は、百条委員会での偽証罪告発に当たつて、どの証言がウソになるのかを特定する文書を提出。さらに、北川町長、建部議員、西澤議員の陳述書を提出し、その概要を説明しました。

陳述書の中で北川町長は疑惑発覚当初の様子などを述べ、「町民はもちろん滋賀県民の行政に対する信頼回復」を求めた切実さを述べたものです。建部議員の陳述書は、職員から見聞きした内容を談合の舞台となつた議会事務局でのやりとり、関係者のつながりなどを織り交ぜながら、リアルに再現しました。

西澤議員の陳述書は、官製談合の背景となつた問題として、尼子駅前土地にかかわる山崎義勝前町長の利権体質、町長4年間での建設費の突出、福祉空間施設建設用地をめぐる濱野圭市前議員の疑惑の3点を調査による事実をもとに指摘しました。

玉木弁護士の要請に対し、海洋三席検事は具体的な証拠書類の提出を要請する場合など、捜査の着手を思わせる発言もした一方で、成り行きはどちらとも断定できない、と濁す態度も感じられました。